



学校教育目標 「心身ともに健康で、個性豊かな実践力のある子どもを育てる」

～ 困いさつ ぞうじ べんきょう 「あそべ」をがんばろう ～ いじめをなくそう ～

新年度がスタートして約3ヶ月半が過ぎました。この時期は学習でも生活でも一つのまとめの時期です。子どもたちは4月から色々な学習や活動で多くの知識を身につけてきました。これからさらに、身につけた「知識」を生活の中で積極的に使っていくことで「知恵」に変え、自分の成長や、みんなの役に立ててほしいと思います。夏休みを前に、色々な学習や活動に積極的に取り組んでいたか、また、友達との人間関係はどうだったか、自分自身がどのように変わってきたかを振り返る機会にしてほしいと思います。

◇この3ヶ月半を振り返って◇

係りの仕事への取り組みや友達関係の出来事など、4月から子どもたちの様子を見て感じたことをまとめてみました。見方や考え方、気持ちの持ち方を色々変えてみて、楽しく学校生活が送れるようにしてほしいと思います。

【仕事への取り組みについて】

学校では日直の仕事や係活動、掃除当番や給食当番があります。5年生、6年生になると委員会の活動や行事で特別に仕事をするこも増えてくるこもあります。

単純な作業や同じことを繰り返す作業をしていると、つい手抜きをしたり、適当にしてしまったりするものです。仕事を忘れると他の人に迷惑がかかるし、仕事は忘れずにしているけど、なんだか面倒くさくなって適当にしてしまうと、ミスがあったり不十分だったりすることも出てきます。どうしてもやらされている思いながら仕事をしていると嫌な気持ちが先に立ってしまいます。しかし、仕事は誰かがやらなければなりません。言い換えると仕事をすることは誰かの役に立つこことになります。どんな仕事でも、その仕事はどこかで必ずまわりの人とつながっています。そのつながっている人のためだと考えて自分から仕事をするように心がければ、どんな仕事にも大きな価値が出てくるのではないのでしょうか？

昨年からアメリカのメジャーリーグで活躍している野球の大谷翔平選手が昨年4月の試合で、バッターとして一塁に出たときに、グラウンドに落ちているゴミをさりげなく拾ったこがありました。大谷選手は、普段からグラウンドにゴミが落ちていると意識して拾うようにしているのだそうです。大谷選手は「なぜゴミを拾うのか…」と記者から聞かれると、「人が捨てた運を拾っている」と答えています。ゴミを拾うというほんの小さな行為でも、こういうふう考えることはとても素晴らしいこではないのでしょうか？

【参考】 メジャーの大舞台で「ゴミ」を拾った大谷翔平

4月11日のレンジャーズ戦、8回表、大谷は四球を選んだ。一塁に大谷を置いて、レンジャーズは投手をクリス・マーティンに交代した。昨年まで大谷と日本ハムで同僚だった投手だ。マウンドに上がるなり、マーティンは鋭い牽制球を投げた。慌てて一塁に戻る大谷。このとき大谷は一塁ベースに長い足をかけながら、手を伸ばしてファウルラインの内側に落ちていたゴミを拾ってファウルゾーンに投げたのだ。(・・・中略・・・)

MLBのベンチは、選手の足元に食べた後のヒマワリの種のカスやスポーツドリンクの紙コップなどが散乱している。そこに選手は平気でつばを吐いている。いくら清掃専門のスタッフがいるといっても数十億円もの年俸を得ているスターたちの居場所としては、ふさわしくない。大谷選手はそんなベンチに座りながら、グラウンドの小さなゴミに目が行き届く感性を保っているのだ。(・・・中略・・・)

実は大谷選手は意識してグラウンドのゴミを拾っている。2015年、チームの大先輩、稲葉篤紀がベンチ前のゴミを拾ったのを見て感動して、それを真似るようになったのだ。彼自身はそれを「人が捨てた”運”を拾っている」と表現した。(後略)

[東洋経済オンラインより一部抜粋]

【友達関係について】

新年度が始まって夏休みまでの時期は、学級生活になじめなかつたり、友達関係も十分にできていなかったりするため、どうしてもけんかやトラブルが多くなります。その都度、教師は子どもの話をしっかり聞いて仲直りができるように指導していますが、中にはなかなか仲直りが難しい、うまく仲直りができない場合もあります。どうして仲直りが難しいのか、これには理由があります。それはいつまでも「自分は正しい。悪いのは相手だ。」とお互いに思っているからです。自分は悪くない、だから謝るのは相手の方だ、自分から謝るのはおかしい。こんな風にお互いがいつまでも考えているから仲直りが難しくなります。そう考えると、仲直りをするコツは「自分から謝ること」ということになります。それでも、自分は正しいのになぜ自分から謝るのか？と思うかも知りませんが、そもそも「自分は正しい」は本当に正しいのでしょうか？ひょっとしたら、自分にも悪いところがあるかもしれないと、自分の言動を振り返ることができれば、相手への不満が少しずつ減っていくものです。

「独りしか渡れない丸太橋」のように「自分は正しい」という思いが衝突したときに、先に丸太橋の道をゆずる（謝る）人は幸せな人です。けんかが絶えないときや友達関係がうまく行かなくなった時こそ、冷静に自分の言動を反省して先に謝ってみてはどうでしょうか？

◇田んぼアートが見頃です◇

5月15日（水）に5年生が明野児童館前で田植えを行いました。子どもたちがデザインした作品をもとに植えられた田んぼアートが7月から見頃になっています。デザインのモチーフは「伊勢えび」です。明野児童館前に建てられた高見やぐらからは、きれいに浮き上がった「伊勢えび」のデザインが見られます。「水土里プロジェクトおばた」の方も案山子を作って立ててくれています。

この田んぼアートの一年間の流れは、1月に子どもたちから募集した原画の審査。5月に苗植え。7月に高見やぐらの設置。9月には稲刈り。12月に餅つき体験です。子どもたちにとっては年間を通してとても貴重な体験になります。なお、高見やぐらは7月31日まで設置していますので是非ご覧ください。

◇有意義な夏休みに◇

いよいよ20日から子どもたちは待ちに待っていた夏休みに入ります。お家の方と相談して色々楽しい計画を立てていることと思います。夏休みは普段の学校生活と違って、子どもたち一人ひとりが計画を立てて自由に自分の時間を使うことができます。そのため、過ごし方によっては充実した夏休みとなったり、だらけた夏休みになったりします。この夏休みの取組として『夏休みにできること』『夏休みのように長い期間でないとできないこと』を計画して実行してほしいと思います。

そして、それぞれ家庭によって1日の過ごし方は色々あると思いますが、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣の確認と、朝のうちの学習時間の確保、家庭での役割分担など、家族の一員として自分の役割を作ることが大切になってきます。夏休みだからこそできる家のお手伝いや時間をかけた学習や研究、挑戦したいこと等、子どもたちの主体性を大切にいただき、色々な体験をさせてあげてください。

また、夏になると必ず海や川での子どもの水の事故についての悲しいニュースが流れてきます。「命は一つ。自分の命は自分で守る」ということも子どもにお話をしてあげてください。

一日一日を大切に、有意義な夏休みを送り、9月2日には、子どもたち全員が元気に登校できることを心から願っています。

なお、学校は夏休み期間中の土曜日、日曜日、振替休日と8月13日～16日の「学校閉校日」は、職員がいませんのでご了承ください。

「独りしか渡れない丸太橋」 高森 顕徹

意見が衝突したら、独りしか渡れない丸太橋を思い出すことだ。
左右から同時に渡れば二人とも動けなくなることは明らかである。
先に譲った人が相手より幸せな人だ。
譲られた人は、感謝して通ればまた幸せになれる。
当然の如く通る人は、最も不幸な人である。



何かありましたら、ご連絡を・・・

明野小学校 TEL 24-5171

学校の様子「トピックス」や「学校たより」、行事予定、今日の給食などは、HPもご覧ください。